

尼同教 60年

尼同教の結成とその後の取組 ⑤

尼崎市人権・同和教育研究協議会 副会長 三澤 雅俊

前号に引き続いて、尼同教のあゆみを今回は「尼同教50周年記念誌」で執筆していただいた小餅谷信行さんの「40周年から50周年まで」をもとに振り返ってみたいと思います。

前号でも触れましたが、2001(平成13)年6月21日の尼同教定期総会で規約を改正し、名称を「尼崎市同和教育研究協議会」から「尼崎市人権・同和教育研究協議会」に変更しました。このことについて、当時の野村会長は「ここ数年来、尼同教の役員会・専門部長会で尼同教の名称について議論を重ねてまいりました。その中でまず第一に、世界的にも国内的にも人権尊重の大きな潮流があること。次に、同和教育の諸団体の動向である。全同教大会、兵同教、阪同教の名称や県内の諸同教(協)の名称推移のこと。そして、尼同教の諸事業や尼同教所属の団体の啓発事業を、より一層活性化させることができるのではないか。また、話し合いの中では、この規約改正は「同和教育」が解決したから「人権教育」ということではなく、「同和教育」「同和教育」を人権問題の重要な柱であると、きちんと位置づけていくことが再度確かめられました」と説明しています(尼同教だより第71号)。

この年の6月の推進大会の記念講演で、武庫川女子大の堀井隆水先生が、この問題に関連することを話されています。

「今、『同和』から『人権』でいこう、その中間をいこうということで、人権・同和や同和・人権という表現をしています。かつては、部落問題、部落差別の問題を前面に出して、市民の中で取り組んできました。しかし、『その改善が随分進んだのに、同和だけではないのではないか、部落差別の問題だけではないのではないか。』と広く人権をとらえた手法へと変わっていくべきだという、社会の潮流になっていったと思うのです。その人権の一般論に流れていきますと、同和の方がおろそかになるのではないかと、表向きは確かに差別解消は進んだと思うが、やはり根深いものを持っている現状があるのです。被差別部落出身の方は、『私の一生の間に、なんとか差別を解消してほしい。』と願っていらっしゃるのです。それは、人権一般が進められると、少し物足りない。そうかといって、あんまりざらざら同和ということを出されるのも少し違和感がある、という戸惑いがあるのです。すなわち、しっかりやってほしいが、あんまりざらざらされるのも・・・、そうかといって一般の人権問題として幅広く全てに進められると、部落問題が依然として残っていくのではないかという危惧があるのです。肝心なのは、どんな差別もあってはならないことです。」(「尼同教この1年」'01年版)

この考え意見は、啓発に携わっている現場からの声ですが、この背景には国の方針もあるのです。(次号につづく)

※2021(令和3)年現在の略称は「兵人教」「全人教」です。

尼崎から人権を考える

尼同教だより TUNAGARU

つながる

第110号 2021.3

発行 尼崎市人権・同和教育研究協議会
〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 社会教育課内
TEL/06-4950-0405 FAX/06-4950-5658
E-mail/ama-syakaikyoku@city.Amagasaki.hyogo.jp

尼同教だより愛称決定!

尼同教個人会員の藪野正明さんが応募してくださった「つながる」に決まりました! 「人と人、地域と地域、世代を超えてさまざまな人や考えがつながり、発展することを期待します」との願いをこめての命名です。またローマ字表記「TUNAGARU」の「TU」はモールス信号で「ありがとう」を意味します。人と人のつながりに感謝を込めて、尼同教だより「つながる」をよろしくお願いいたします。



安井 友萌さん 「言葉の力」より

人権マンガ入賞作品発表!



富永 愛那さん 「うわさを信じずに」より

尼同教新事業「人権マンガ大募集」に、小学校2年生から50歳代まで、たくさんの方からご応募いただきました。さまざまなテーマで人権意識の高さを感じる素敵な作品の中から選ばれた入賞作品を2ページから7ページで紹介いたします。

2020(令和2)年度 事業報告

■尼同教人権・同和教育推進大会

10月29日(木) 崇仁発信実行委員会代表の藤尾まさよさんに「このまちが好きだから一被差別の歴史をもつ地域に生まれて」というテーマでご講演いただきました。講演内容は「尼同教この1年」に集録しています。

■尼同教人権・同和教育実践研究大会

1月21日(木)に分科会の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、開催中止としました。各専門部が研究報告発表の準備を進めている中での苦渋の決断でしたが、報告内容は紙面発表として「尼同教この1年」に集録します。

■社会教育部 人権教育現地学習会

12月2日(水) 尼崎市立歴史博物館の見学と「戦後75年尼崎の戦争の記憶」と題して資料担当の辻川敦さんにご講話いただきました。

また、コロナ禍で集まっての学習が難しいことから、個人で人権学習ができるように尼同教会員に人権啓発リーフレット「きっとなくすことができるはず」を配付いたします。ぜひご活用ください。(会員以外の方にもお配りできます。お気軽に事務局までお問い合わせください。)



人権・ひとこと

私たちが最も大切にしてきた人とのふれあいができなくなったこの一年。未知のウイルスにより日常の平穏が失われ、誰もが不安な日々を過ごしました。不安な感情は私たちの身近な所で差別や偏見という形になって表れてきました。これまで様々な人権について学習してきましたが、コロナ禍はまさに、誰もが直面する新たな課題となりました。一方で人と人が支え合う取組も数多く生まれています。

どんな人の心の中にも自分を守ろうとする心と、相手を受け入れて、協調していこうとする心の両面が内在しています。それを理解した上で、相手の気持ちを受け止め、寄り添うことが人権を尊重することにつながります。とても難しく、すぐにはできない事ですが、私も日常の中で、いつも心に留め置いて人に接していこうと思います。

まずは笑顔で「ありがとう」と言ってみませんか。人を思いやる言葉は人を励ますと共に、自分の心も開いていきます。豊かな人権感覚を持つ人が増えていく事で、困難を乗り越えて、誰もが生きやすい社会を築いていけると 생각합니다。

個人会員/人権啓発推進リーダー 小久保 紀子

編集後記

今号は初めて人権マンガの公募を行い、これまで望んでいた『みんなで人権について考える紙面』を発行することが叶いました。ご応募くださった皆さま、本当にありがとうございました。

ここ尼崎が、笑顔でつながりあえる場所となりますようにと願いを込め、皆さまのお手元にお届けいたします。

山本 育子/和田 季子/畑 隆宏/吉田 幸嗣



尼同教では、団体会員・個人会員ともに随時募集しています。お気軽に事務局までご連絡ください☆

CONTENTS

- ・人権マンガ入賞作品発表!
- ・「尼同教の結成とその後の取組⑤」 尼崎市人権・同和教育研究協議会 副会長 三澤 雅俊さん
- ・「人権・ひとこと」 尼同教 個人会員/人権啓発推進リーダー 小久保 紀子さん

*** 尼同教だよりのバックナンバーをご覧ください ***

尼崎市HP トップページ > くらし・手続き > はたらく・人権・男女共同参画 > 人権 > 尼崎市人権・同和教育研究協議会

